

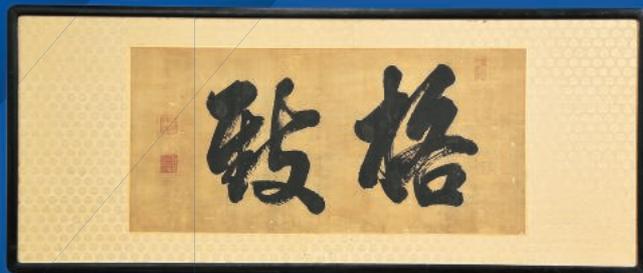


福井大学の特色ある取組 2023



近代福井の礎を築いた松平春嶽公が書いた本学所有の「格致」の額面は、同人の歴史的功績を考えれば本学の宝であると言えます。「格致」とは「物事の道理や本質を深く追求し、理解して、知識や学問を深め得ること」という意味です。本学学生にとっては、学びと人格育成に際し、また教職員においては、研究・教育・社会貢献等で自らの指針となる言葉です。

福井大学は、この「格致」を理念に掲げ、県内より世界に至る様々な地域において、そこに集う人、ならびに社会の未来を拓くことに主体的にかかわり、貢献することを目指します。



本学所有の「格致」の額面

「格致」とは中国の古典「大学」にある「格物」「致知」を短縮した熟語です。「格物」とは事物に直接触れ、「致知」は知識を完成させることなどとされます。

福大ビジョン 2040

- 理念を実現するための道標として、2040年に向け福井大学の未来像を具現化するために策定
- 教職員とともに理念とビジョンに基づき、共感性を高め果敢に挑戦
- ステークホルダーの方々とも共有し、繋がりを一層深化

2040年における福井大学の未来像

世界に通じる 地方総合大学

- バーチャルキャンパス、オンライン教育による世界とのアクセス拡大
- 国内外の大学・機関との結びつきの強化
- 地域連携プラットフォームを通じた県内高等教育機関との協働・地域共創

社会から頼りにされる、 活力ある大学

- 福井県の特徴も踏まえたひとづくり・ものづくり・ことづくり、地域医療と地域教育の拠点機能、産学官金連携活動
- 教職員・学生「ここで働くこと、学ぶことにプライドを持ち、今を生き活きと過ごす」

福井大学の未来像に向けたミッション

1 教育

- 深い実践的教養を備える卓越高度専門職業人の育成
- 学生のキャンパスライフの質向上
- 学びの母港構築による人生100年時代へ対応

2 研究

- 福井に根ざした人類知の創出
- 世界に通じる研究力とイノベーション創出
- 若手研究者の育成の実質化

3 国際化

- 世界と伍する教育研究環境の構築
- 「福井と世界を結ぶゲートウェイ」の実現

4 地域共創

- 地域活性化の中核拠点としての機能・役割の一層の強化
- 県内高校からの志願者増と卒業後の地元定着化

5 SDGs

- 持続可能な社会の実現への寄与

6 カーボン ニュートラル

- 地域のゼロカーボン・キャンパスのカーボンニュートラルの実現
- グリーン人材の育成

7 経営 マネジメント

- 適切な学部・大学院の体制・規模の確保
- 総力的大学経営の実現
- ダイバーシティの推進

新しい時代に生きる子どもたちの 未来をひらく教師をめざして

地域と協働する実践的教員養成プロジェクト

学部教育

■探求ネットワーク事業

子どもたちと共に、人形劇、料理作り、まちかど調査隊、FFC（ふれあいフレンドクラブ：障がいのある子どもたちが対象）などの探求活動を展開しながら、子どもの主体的な学習活動を支え、組織学習力を養います。



探求ネットワーク事業

■ライフパートナー事業

学生が、不登校/発達障がい児童生徒の学校や家庭を訪問し「よき話し相手」として接し、交流を深め、児童生徒の自立を側面的に援助します。共に活動する中で互いに信頼関係が生まれ、子どもの「心の支え」として活動します。この事業には、子どものこころの発達センターも参加しています。

■教育実践研究

学生が4年間かけて履修する総合実践プロジェクトであり、1年次から附属学園等に出かけ、実践と研究を往還しながら活動します。



教育実践研究(教育実習)

大学院教育

■特色ある3大学による「連合教職大学院」

本学を基幹校に、教員養成に優れた実績を持つ奈良女子大学・岐阜聖徳学園大学が参加して、評価の高い「学校拠点方式」を軸とした3つのコースにより、若い世代の教員や学校で核となる教員、管理職を養成します。

福井大学

連合教職開発 研究科

奈良女子大学

岐阜聖徳学園大学

(学校拠点方式とは)

幼小中、特別支援学校等の学校現場(拠点校、連携校)を学びの場とする本学独自の教育方式。県域を越えた3大学が連合し、全国の約60拠点で学んでいます。

附属学園

■義務教育学校

9年間を見通し、未来社会に求められる資質・能力を育成しています。文部科学省の研究開発指定を受け、新領域「社会創生プロジェクト」を創設し、協働探究カリキュラムの開発を行っています。



義務教育学校での学びの様子

■幼稚園

探求から探究へ、感覚的な学びから自覚的な学びへ、幼児教育と小学校教育の接続を踏まえ、遊びを通して学ぶ保育実践園です。海外の先生方とのふれ合い等、様々な人との出会いの場として、週4日間の預かり保育も充実させています。

■特別支援学校

12か年を一貫とし、一人一人の教育的ニーズに応じた生活教育を実施しています。同時に教員はインクルーシブ教育を推進させ、通常教育の中での教育活動を支援しています。

TOPICS

総合大学として唯一の 「教員養成フラッグシップ大学」に指定

文部科学省の「令和の日本型学校教育」を担う教師の育成を先導し、教員養成の在り方自体を変革していくための牽引(けんいん)役としての役割を果たす「教員養成フラッグシップ大学」に、総合大学として唯一、令和4年3月に指定されました。「主体的・対話的で深い学び」を支える教師の実践力を培うために、長期に渡る省察的実践のサイクルをコアとする養成研修カリキュラムの実現と学校・教育委員会・地域・大学「専門職学習コミュニティ・DX多重協働ネットワーク」の構築を進めていきます。



実践研究福井ラウンドテーブルにおける学校と地域を超えた、実践と研究の交流と共有

愛と医術で人と社会を健やかに

真理を探究する知への愛 —
人命を尊重し人間に共感する人への愛 —

■医学教育の国際標準化

医学科では、世界医学教育連盟が定める教育の国際標準「医学教育分野別評価基準」に準拠した教育プログラムを編成し、高度専門職業人として国際的に通用する医師・医学研究者の育成を促進しています。

■革新的画像医学教育： 高度な画像診断教育で医師の「診る」を鍛える

人体解剖画像、病理組織画像、CT、MR、PETなどの先進的臨床画像や分子イメージング画像を、臨床基礎科目および臨床実習の場で利用し、高度化・精緻化する画像診断を、十分に活用できる医師を養成しています。



画像診断教育の様子

■看護学教育： 多様化する社会のニーズに応える 専門的な看護力を育成

看護学科では、幅広い職業選択（看護師・保健師・助産師）ができる教育を行っています。また、地域の健康ニーズを把握し地域住民の健康を高めるための「ふくい看護論」を独自のカリキュラムに組み込むと同時に、多職種連携の在宅医療を担う看護師教育の充実を目指し、医学科学生とチーム医療を意識した「地域ケア実習」を実施しています。また、キャリアアップ実習では、将来のキャリア形成のために国内あるいは海外（英国等）の病院で、高度実践看護師体験実習を選択制で受講できます。



バーミンガム市立大学での高度実践看護師体験実習の様子

TOPICS

福井医療大学との多職種連携科目

「福井医療大学と福井大学医学部との間における講義等の受講に関する協定書」を2022年7月に締結し、地域包括ケア実習（診療参加型臨床実習Ⅰ）の一環として、福井医療大学との合同授業を開始しました。この授業には、本学医学科生と福井医療大学リハビリテーション学科生が参加し、地域包括ケア（高齢者等が地域社会で療養生活を行う支援の仕組み）を実践的に学びます。医師は、医療の提供のみでなく、多職種連携チームの一員として、生活を含めた問題解決にもあたる必要があることから、この実習を通じて医療から介護・福祉へとつながる専門職連携への理解を深め、地域包括ケアシステム全体への巨視的な視点の育成に一層取り組んでいきます。



合同授業の様子

夢を形にする技術者、 *Imagineer*をめざして

■ Global Imagineerの育成

工学部では、Imagineerの育成という理念を掲げて教育改革を推進しています。

Imagineer = Imagine(心に描く) + engineer(技術者)。現在では辞書にも掲載されている英単語です。そして工学の使命は人々の安全・安心な暮らしをデザインすること。技術者が心に描くべきものの一つは、人々の暮らしです。今、想いを馳せる人々の暮らしを日本だけでなく世界へ拡張出来る Global Imagineerの育成に取り組んでいます。

■ 自己変容型知性を育む創成教育への挑戦

Intelligence(知能)については、AIが人間を越える日が近いのかもしれませんが、知能指数で測れるような知能と知性(intellect)は本質的に異なります。教育がなすべきことは、どんな状況になってもしなやかに生き延びることのできる「知性」を育むこと。そうした知性を育む方法論は確立していませんが、

私たちは学科・学年の枠を越えた主体的グループ活動を学科横断型の教員組織で支援する創成教育を通じて、新たな能力育成に挑戦しています。



ヒューマノイドロボットや人工知能の実践的テーマを通じた創成教育

■ 産業現場への即応、そして次世代産業の創成

現代の技術者には産業現場への即応と新たな時代を切り拓く能力が同時に求められます。産業界からの実践現場の提供とエキスパートの教育参加による自律型産業人材の育成プログラム(実践道場)や卓越大学院プログラム(PEP:パワー・エネルギー・プロフェッショナル育成プログラム)といった多様なプログラム等の実施を通じて、高度専門技術者の育成に取り組んでいます。



産業界から実践現場の提供とエキスパートの教育参加による自律型産業人材の育成プログラム(実践道場)

TOPICS

日本鋼橋模型製作コンペティション2022で総合優勝!

令和4年9月に、埼玉県のものづくり大学で開催された日本鋼橋模型製作コンペティション2022において、本学工学部と大学院工学研究科の学生が、構造部門で1位、架設部門で2位、プレゼンテーション部門で入賞し、参加20チームの中で総合優勝を飾りました。

よりスピーディーな架設と載荷時のたわみが少ない構造を実現させるため、過去大会の作品データをAIに学習(機械学習)させ、得られた結果を活用して設計案を決定したことが、今回の結果に繋がりました。

参加学生からは「皆で協力し合って、たくさんのアイデアを出し、何度もシミュレーションを行い、最適な設計や架設方法を生み出したことで今回総合優勝を収めることができたのだと思う。この経験を今後の大会や、自身の学習に役立てたい」との声が聞かれました。



日本鋼橋模型製作コンペティション2022の様子

未来志向で、地域に織り込む 世界へのまなざし

国際地域学部

多様な学びを支える3つの特色

■世界と地域を繋ぐ徹底した英語教育と 海外留学を通じた異文化理解教育

グローバル社会で活躍できる人材を育成するために、海外留学を含めた多様な経験の機会を提供しています。

■地域の企業・自治体等と連携した 地域密着型課題探求プロジェクト

福井の産業振興や地域振興の現状・課題に触れることを目的に、グループ活動を実施しています。企業や自治体等へのヒアリングを通じて、各分野の実情や課題を学び、その知見を最終報告会でプレゼンテーションします。

■工学部など他学部との連携による 幅広い学識を培う文理融合型教育

現代の地域社会が抱える複合的かつ具体的な問題に対して意識を深め、その解決策提案に向けて、自然科学系の基礎的な知識や方法論を学びます。



授業風景



天保2年(1831)創業の味噌蔵「米五」でのヒアリング

国際地域マネジメント研究科(専門職学位課程)

■グローバル化した地域の課題解決に挑戦するリーダーを養成

2年間の修学の間に「地域と世界の現状と課題を知る」「マネジメント能力、リーダーシップの育成に必要な専門知識」「語学力・コミュニケーション能力」に関する授業科目を設定し、教員と院生との双方向性や院生間の討議を重視することにより、専門知識の実践的な習得を目指しています。さらに「海外実地研修」に取り組むことで国際感覚の醸成と履修科目の内容の体得を図ります。令和4年度は、1年生はホーチミンでのプレ海外研修、2年生はそれぞれ東南アジア諸国の事業所、アメリカのNPOなどで2週間～1か月、またパリのユネスコ本部で半年の海外実地研修を実施しました。

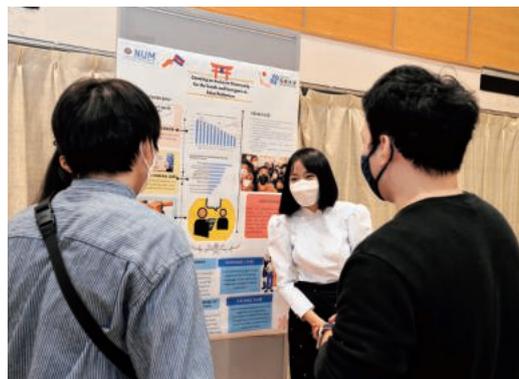


ホーチミンでの工場見学の様子

TOPICS

国際青少年サイエンス交流事業 (さくらサイエンスプログラム)による国際交流

国際地域学部では、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)が実施する「国際青少年サイエンス交流事業(さくらサイエンスプログラム)」に採択された交流事業により、令和4年10月2日～16日、カンボジア国立経営大学(NUM)国際学部の学生10名と教員1名を招へいしました。県内各地でのフィールドワーク、地元企業や教育機関訪問、関係者インタビュー等を通して、日本における地域創生の取り組みに関する調査を実施した他、調査結果発表及び発表後のディスカッションには国際地域学部の学生約20名も加わり、共に学びを深めました。



研究調査結果のポスター発表の様子

原子力の安全性向上、 防災危機管理の向上のために

原子力関連機関が集積する地域の特性を活用し、国内外の大学や研究機関との連携により、工学部機械・システム工学科「原子力安全工学コース」の学・修一貫教育を推進し、地域課題に対応しグローバルにも活躍できる人材の育成を進めるとともに、先進的原子力科学研究、放射線利用研究、廃炉技術研究を推進しています。

■国内の連携

未来社会に向けた先進的原子力教育コンソーシアム(ANEC)の構築
複数の機関が連携してコンソーシアムを形成し、原子力分野において育成する魅力的な人材像を掲げ、共通基盤的な教育機能を補い合い、拠点として一体的に人材を育成する体制を構築し、日本の原子力に貢献する人材育成の中核となることを目指します。取組のひとつとして、福井工業大学、日本原子力研究開発機構、日本原子力発電、関西電力と連携して、「つるが原子力セミナー」を実施しています。

先進的原子力安全・防災・新型炉基礎研究

- ・ 福井県嶺南地区をモデルとした原子力防災手法の確立と計測機器等の開発
- ・ 新規規制基準対応のための評価手法の開発
- ・ 廃棄物減容に係る研究

もんじゅサイトの新しい試験研究炉の概念設計への協力と地元連携の構築

- ・ 中性子利用研究検討会(パイロットファーム)を立ち上げ全学的な取組を推進

先進廃炉技術研究コンソーシアム

- ・ 地域に根ざした既設炉の廃止技術研究と事業者ニーズに基づく人材育成



さくら招へいプログラム ベトナムと本学学生による発表



外国人研究者によるセミナー

■国際化

- ・ 欧米や東アジア・東南アジア地域の大学、研究機関等との研究者・学生の交流
- ・ さくら招へいプログラム、国際シンポジウムの開催
- ・ リモートによる海外からの講義の実施

TOPICS

研究集団を育成する 学内公募型研究推進事業「研究ファーム」始動

大型研究拠点や新規研究分野の開拓を目的に独自の公募型研究推進事業「福井大学研究ファーム」を令和4年4月から開始しました。従来の研究者個人への支援では行き届かなかった研究グループの育成、大学の顔となる研究分野の創出や拠点形成を目指します。研究ファームには研究支援ステージとして、研究課題の共有を皮切りにした「パイロットファーム」、異分野を融合し育成する「クロスファーム」、研究の拠点形成に向けた「ビジョナリーファーム」の3つがあります。各ファームでは段階的にURAをはじめとした研究支援を行い、学内外の研究者や企業のマッチング活動、進捗状況にあわせて研究助成金を厚くしていきます。特に「クロスファーム」、「ビジョナリーファーム」はそれぞれ最長3年の設置が認められ、長期的に大学全体でファームの成長を促進させていきます。

福井大学研究ファームウェブサイト



上田孝典学長(写真中央)から任命状を授与されたクロスファーム長ら

高エネルギー電磁波の 医学利用に関する 研究を推進

サイクロトロン及びポジトロンCT・磁気共鳴(PET/MRI)装置を用いて生体の機能や病態を画像化し、疾患の診断と予防に関する研究を推進しています。(米国ワシントン大学や量子化学技術研究開発機構と学術提携)国内有数の一体型PET/MRI装置を用いた最先端分子イメージング研究では世界的にもこの分野をリードしています。



世界有数の最新型PET/MRI装置

■ PET分子イメージングの 包括的研究を推進

- ・ 新規PET薬剤等の開発研究や疾患動物モデルなどを用いた基礎研究
- ・ PET/MRIを用いたがんの診断・治療に関する臨床研究
- ・ 脳PETやMRI画像を用いた神経変性疾患の病態研究

■ 医工連携による産学官共同研究

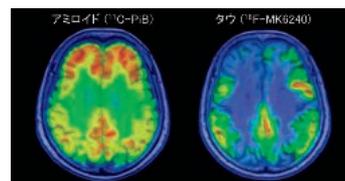
- ・ パナソニックライフインフォマティクス共同研究部門を設置し、産学官共同研究を実践

■ 画像医学研究を担う人材の育成

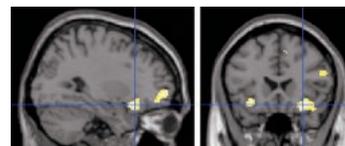
- ・ 医学、薬学、工学などの様々な学問分野における幅広い教育
- ・ 海外留学生の大学院教育、国際ワークショップ等による医療画像分野での国際貢献

■ 子どものこころの発達研究センター・ 精神医学講座との共同研究

- ・ 機能的MRI(fMRI)を用いた脳発達に関する機能画像研究
- ・ 自閉スペクトラム症の世界的脳機能画像研究機関として病態解明に貢献



脳PETを用いたアルツハイマー病の脳画像



学童～思春期に年齢とともに活動が変化する脳領域(カラー)

高出力遠赤外/ テラヘルツ波分野における 世界的拠点

世界最高周波数(1テラヘルツ超え)を記録した独自開発の高出力遠赤外光源「ジャイロトロン」を応用した遠赤外領域の研究を推進しています。

■ 遠赤外(テラヘルツ光)領域の先進的・先導的研究

- ・ 高出力遠赤外光源「ジャイロトロン」のさらなる高性能化
- ・ ジャイロトロンの高周波・高出力電磁波を利用した電子スピンエコー測定装置の開発

■ 国内外の研究機関と グローバルなネットワークを構築

- ・ 国内外多数の研究機関と学術交流協定や共同研究覚書を締結し、グローバルな共同研究と学術交流を展開(国内外10機関との学術交流協定、国内外10機関との共同研究覚書を締結)



遠赤外技術に関する国際会議(福井大学で開催)



電磁波発生装置「ジャイロトロン」

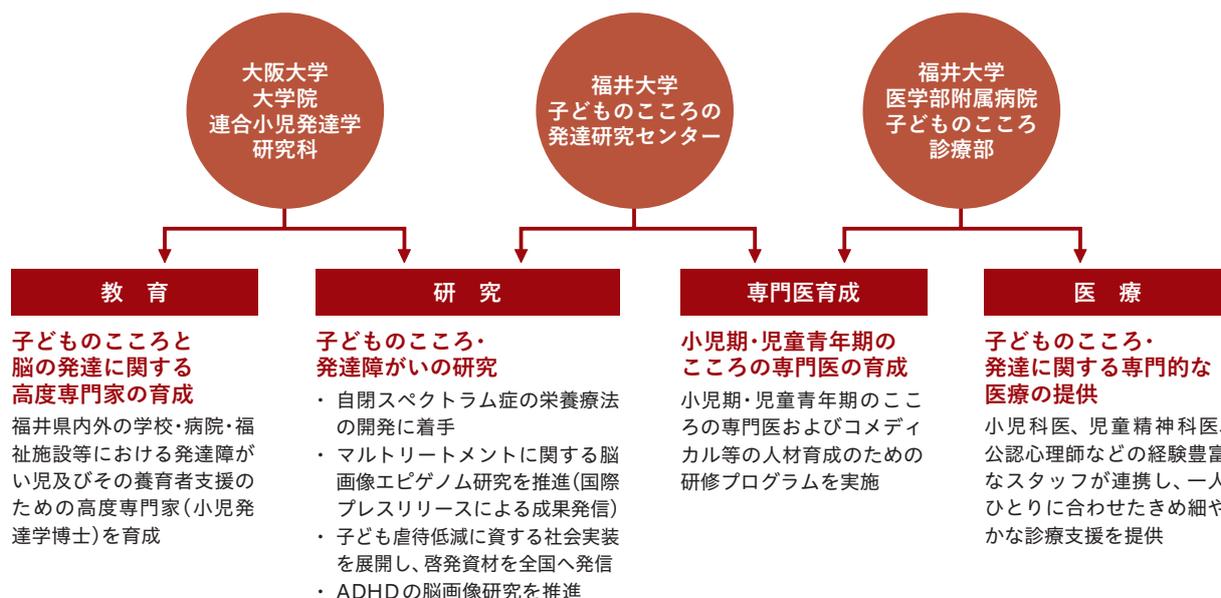
子どものこころに取り組む

少子化が進む中、発達障がいを含むこころの問題を抱える子どもが急増しており、未来を担う子ども達を守り育てていくために、急増原因の科学的究明と専門家の育成が急務となっています。

本学の「子どものこころの発達研究センター」では、分子生物学技術やイメージング技術を駆使した脳機能の解明に取り組むとともに、新たな発達障がいの診療技法の開発を目指した研究を展開しています。附属病院「子どものこころ診療部」では、小児期・児童青年期のこころの問題の診断・治療を通して、子どもの問題

行動への対処法の開発や、養育者に目を向けた取組を実施し、同時に子どものこころの問題に関する地域ネットワークの構築にも力を入れています。

さらに、研究成果を教育に還元する目的で大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学の5大学連合による大学院「連合小児発達学研究科」では、All Japanの教育研究体制で、子どものこころの諸問題に従事する人材の育成に取り組んでいます。



繊維・マテリアルに関する研究の推進

本学の重点領域である繊維・マテリアル分野について、学術面と地域産業の発展に寄与すべく、教育・研究を推進しています。

■ 繊維・機能性材料工学分野の基礎研究・開発の推進

- ・ 学内研究プロジェクトの実施、若手研究者を積極的支援
- ・ 研究成果の発信(研究発表会、年報の発刊、展示会出展などでアピール)
- ・ カーボンニュートラル研究部門を新設、繊維・マテリアル分野を基軸とした当該分野の研究推進

■ 県内外の研究機関や企業との共同研究の推進

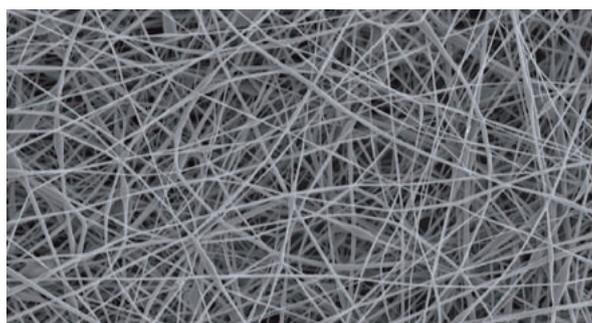
- ・ 専任教員が企業を回り、可能性を調査し、共同研究を強力に推進
- ・ 福井県工業技術センターや県内企業技術者との定期的な交流

■ 研究プロジェクト実績(実施中を含む)

- ・ NEDO事業「炭素循環社会に貢献するセルロースナノファイバー(CNF)関連技術開発」: 研究テーマ「多様な製品用途に対応した有害性評価手法の開発と安全性評価」(産業技術総合研究所と共同実施)
- ・ AMED「ウイルス等感染症対策技術開発事業」: 研究課題名「ウイルス感染を防止する低圧力損失マスク・フィルターに関する研究開発」



北陸ヤーンフェアに出展



フィルター応用に期待されるナノファイバー

最新・最適な医療を 安心と信頼の下で

■県内で唯一の特定機能病院として高度医療を提供

「地域医療の砦」として最重症症患者を受け入れています。安全で質の高い医療を提供するとともに先進医療の促進、若手医師の臨床研究への積極的参画の推進を図り、先進医療技術の地域医療への展開を目指しています。

■大学病院初の北米型ER救急体制

軽症の一次救急から高度の専門的な治療が必要な三次救急まで、全ての患者を365日24時間体制で受け入れています。救急部と総合診療部の合体運営により患者のニーズに応じた救急初期診療を実践しています。

■パートナーシップ・ナーシング・システム(PNS)と「看護総合力育成プログラム」の実現

- ・ 本院看護部が開発した独自の看護体制(PNS)を全病棟で導入。二人の看護師がパートナーを組み、患者さんに安全で質の高い看護ケアを提供します。
- ・ 卒後3年間は、看護総合力育成プログラムに沿った段階別研修と育成チームによる支援体制により看護師として必要なスキルを習得します。

■労働生産性・安全性の向上と働き方改革の実現： 手術器具の「総合滅菌管理システム」を開発・導入

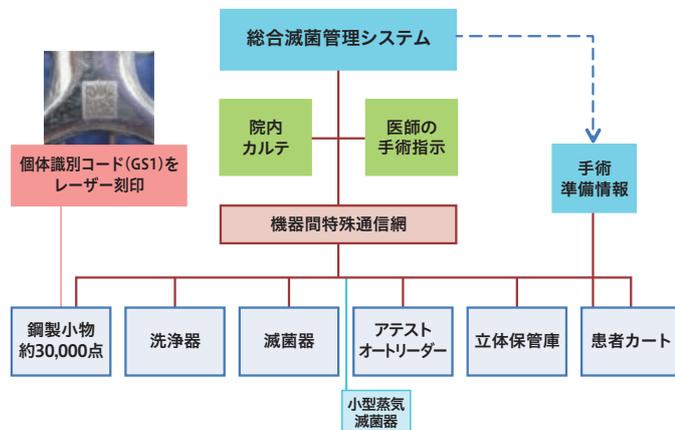
約32,000点の手術用鋼製小物の洗浄・滅菌から術後回収まで一元管理を行い、器材のトレーサビリティを確保することで、安全性向上、ワークフローの効率化による人件費削減、労働時間の短縮による看護師らの働き方改革に貢献するなど大きな成果を上げています。これらの成果は全国的な評価を受け、「MCPCaward 2019」で総務大臣賞、「看護業務の効率化先進事例アワード2019」で特別賞を受賞しました。



全ての患者を受け入れ「地域医療の砦」として迅速に対応



二人一組のチームで看護ケアを行う



総合滅菌管理システム

TOPICS

高度生殖医療センターの開設

福井県の不妊治療中核施設として、県内で完結できる医療提供体制の強化を目指し、医学部附属病院に高度生殖医療センターを開設しました。

本センターは、県内の生殖医療の拠点として、かかりつけ医と本センターと役割を分担することで、不妊治療の負担を軽減し、少しでも早い妊娠・出産の手助けをするために地域の牽引役を果たします。

福井県は近隣の府県と比べて生殖治療の提供体制が脆弱で、不妊治療を受ける女性患者は約1千人いるものの、その半数以上が県外の病院へ通院し治療を受けています。また、その患者さんの7割以上が就労しており、少なくとも月2回、多くて月10回の通院や女性の排卵周期に合わせた急な受診が大きな負担になり、治療を受ける多くの働く女性が両立に悩んでいます。

地域医療の担い手の育成

■地域の医師は、地域が育て、地域が守る

医学部地域プライマリケア講座では、高浜町和田診療所、高浜病院等において学生や研修医教育を通じて地域医療再生の鍵となる家庭医・総合医を育成しています。

- ・ 外来診療をはじめ救急診療、在宅医療、健康相談
- ・ 医学生・研修医教育だけでなく町民の皆様への啓蒙活動
- ・ 医療システムの研究や健康動態の調査

■福井メディカルシミュレーションセンター

県内すべての医療従事者を対象に、多様な実技トレーニングのできる研修施設を整備しています。検査・治療等の疑似体験カリキュラムを導入し、地域医療人教育を高度化します。

- ・ 医学生・看護学生、医師、看護師等医療従事者の実技研修
- ・ 多職種連携トレーニング
- ・ 救急対応の標準化
- ・ 県内医療従事者の生涯教育の充実



縫合と結紮の基本(実技)の様子



■臨床教育研修センター

「次世代を担う医療人を育てるために」をテーマに、卒後臨床研修の円滑な実施を始めとし、学生・医師・看護師および医療従事者の方に技術や知識を修得する場を提供することを目的に設置されました。

- ・ 本院で研修する初期臨床研修医の勉強・交流の場
- ・ 院内外の医療従事者を対象としたセミナー・講習会の開催



初期臨床研修医向けコアレクチャーの様子

これらの悩みを解決すべく、かかりつけ医と本センターが医療連携し、妊娠・出産へ導く「医療連携システム構築」を策定するためのクラウドファンディングを開設と同時に立ち上げ、目標額を大幅に上回るご支援を頂きました。

患者さんの治療経過や検査結果をSNSやアプリ、ビデオ通話でスピーディーに共有。かかりつけ医と本センターとでスムーズに治療を提供できる体制を整え、地域完結型の不妊治療提供を目指して行きます。



高度生殖医療センター開設式

産学官でイノベーションをハイブリッド推進

教員、URA、事務職「協働」による持続的産学官連携活動への取組事例

■「ひとつ屋根の下」の協働

「ふくい産学官共同研究拠点」

燃料電池やめっき処理、レーザー微細加工などの研究に必要な最先端の試作・評価機器を30種類設置し、環境・エネルギーに関する共同研究を推進。さらに自前でも、新しい先端機器を続々と配置。

「オープンR&Dファシリティ」

学内の大型計測機器類を結集した研究開発施設を整備し、地域企業等と大学が連携してソリューション追求型の研究開発を推進。



先端機器を利用したコンサルティング



最先端計測機器

■イメージを「見える化」する試作

「インキュベーションラボファクトリー(ILF)」

大学のもつ技術シーズを、地域の「ものづくりの匠」の技を駆使して「試作品」を製作。市場性を問い、産業界へ橋渡し。さらに、市場の反響を見て、事業として一歩踏み出す活動も。

〈ILFにおける試作品の例〉



浅井戸・加圧給水用ポンプ



油管理計

■「知」の創出を支援する専門人材

「URA(リサーチアドミニストレーター)」

新たにT-URA(TはTechnology, Training, Transfer等を意味する)の取組を加え、研究現場における産学の情報集積、機器分析を通じた人材育成、技術相談等もカバー、大学を基軸に知的創造サイクルを回すエンジンとして、研究者とともに研究活動の企画・マネジメントを通し、研究の卓越性を探究します。さらに、医学系研究の社会実装等の促進を図るM-URA(MはMedicalを意味する)、研究の知的資産を本学のブランドの価値向上につなぐプロモーションを担うP-URA(PはPromotion)を通して、知的創造サイクルの高度化を図っていきます。

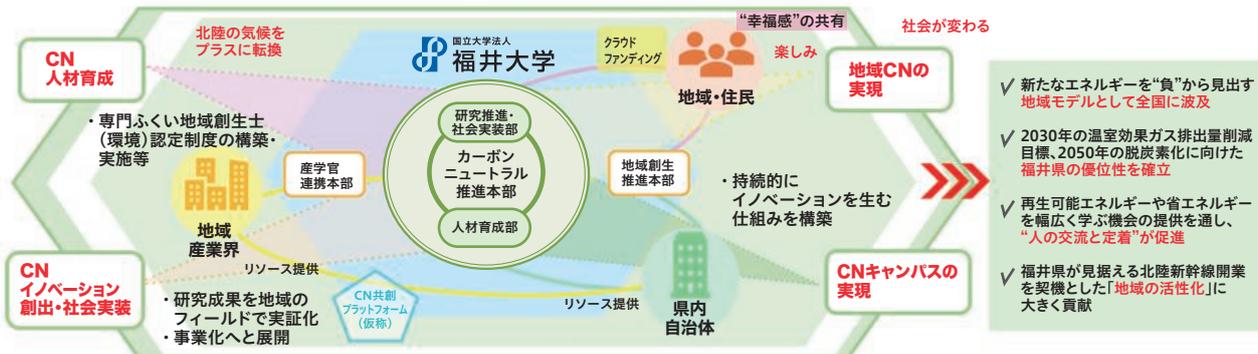
TOPICS

カーボンニュートラルの推進

カーボンニュートラル(脱炭素社会の実現)に寄与するため、2022年4月に教職協働によるカーボンニュートラル推進プロジェクトチームを設置し、ゼロカーボン化の推進策を検討しています。

また2023年度政府予算案において本学の各分野のリソースと地域・企業が一体となってゼロカーボンを推進するための新

たな学内共同教育研究組織「カーボンニュートラル推進本部」の設置が盛り込まれました。この組織を核に、北陸特有の気候・風土(大雪、寒暑、風雪雷など)をプラス思考でとらえ、地域そのものを研究成果の社会実装のフィールドとした革新的なイノベーションの創出を図り、地域を巻き込んだ研究を通じて、社会に一層貢献していきます。



従来の産学連携型から、研究者がフィールドに飛び出して地域・住民と協働し、実証を経て社会実装まで共感を得ながら加速する「地域共創型」へ

地域が必要とする人材を育成

■自治体・関係機関等との連携育成

福井県の協力のもと、県内8校の全ての高等教育機関が参加する協議体「FAAふくいアカデミックアライアンス」において、福井における様々な地域課題に各高等教育機関が持つ特色ある知を活かした取組を展開しています。

FAAでは、4つの部会(入学者確保部会、地元定着部会、協働教育部会、教養共同化部会)を設け、それぞれにおいて活動を展開しています。



福井県による未来協働プラットフォームふくい推進事業の補助を受けて実施した「地域と協働したシリアスゲーム概念によるSDGsへの応用ワークショップ」(「Fスクエア」ホームページ「FAA 協働教育部会」記事より)

また、2022年度には、福井県の主導のもと設立された「未来協働プラットフォームふくい」の参画団体として、プラットフォームの下に設置された各部門において、地域社会の維持発展を図る取組みを推進する活動に向けて具体的な議論、実践に向け動き出しました。

FAA ふくいアカデミックアライアンスの情報を「Fスクエア」ホームページ(FAAの概要)にて公開中です。

URL:<http://www.allfukui-cocp.jp/>



■地域創生推進本部における人材育成

「地域創生推進本部」は、産学官金と連携して、地域重視の研究の強みや特色を最大限に活かし、持続的な社会の発展に寄与するため、地域が必要とされる人材の育成及び社会貢献を支援・推進しています。2022年度は、新たに「嶺南地域共創センター」と「創生人材センター」を設置し、嶺南地域を実装の場として多職種連携教育の実現に向けた取組を推進しています。これまで文部科学省による「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」で培ったノウハウとネットワークをベースとし、本学における地域貢献活動や地域協働の取組の中核として、地域協働・共創活動を推進していきます。

福井大学では2021年度までに「ふくい地域創生士®」220名を認定、「ふくい地域創生アワード」11名を表彰しています。

※「ふくい地域創生士®」とは福井大学の登録商標で、地域を学び、自分を知ることにより「地域に貢献できる人材」と認定された証です。
※「ふくい地域創生アワード」とはふくい地域創生士の中から、地域の課題解決に繋がる顕著な業績をあげた学生を表彰するものです。

国際貢献

■国外機関と連携した国際的教育実践研究

OECDやJICAと連携し、NIE(National Institute of Education)やWALS(The World Association of Lesson Studies)と協働で、「学校拠点方式」による教員養成と教師教育を世界展開します。

2019年11月、教員研修や教員養成研修に携わっている教育行政官や教員など、アフリカ諸国にサウジアラビアを加えた7カ国から12名を受入れ、アフリカ圏の教育の質向上を支援する研修事業を行いました。

■エジプトの教員の能力強化を目的とした人材育成事業

連合教職大学院では、エジプトの教員の能力強化を目的とした「エジプト・日本教育パートナーシップ」の人材育成事業により、2018年度から合計680名の教員を研修員として受入れます。

2022年11月には第5回目のプログラム受講生40名が本学を訪れ、教育学部附属義務教育学校や福井市公立学校で学校行事や授業を参観。協働探求型の研修により、子どもたちを中心とした日本の教育活動を学びました。

この他、本学教員がエジプトの現地を訪れ、帰国後の取組をフォローアップするなど、包括的な支援を行っています。



少人数グループでのディスカッションの様子



附属義務教育学校での参観

嶺南地域共創事業(プロジェクト)

本学では、令和4年度から始まった第4期中期目標期間において、福井県・嶺南2市4町と本学が連携し、包括的に地域課題解決を行う「嶺南地域共創事業(プロジェクト)」の実施を柱の一つとして掲げています。本プロジェクトでは、嶺南地域を実装の場として、地域課題解決に向け、4学部がそれぞれの専門性に軸足を置きつつ緊密に連携し、課題解決プロジェクトを軸とした、職種の違い

を超えて包括的に課題に対処できる資質・能力を培う多職種連携教育、及び専門教育で培った知識・スキルを社会生活とリンクさせるための実践的教育を展開します。これらの「社会共創教育」の展開により、包括的に課題に対処できる資質・能力を持った卓越高度専門職業人を養成するとともに、社会変革につながるイノベーションの創出を主導します。

福井大学におけるSDGsへの取組

～1つのゴールは複数のゴールに繋がっている～

本学ではSDGsの17のゴールのうち6つのゴールを優先課題として取り上げ、学内の関係部局と連携してゴールを達成するため、2022年4月に「SDGs推進室」を設置しました。推進室では、様々な活動を企画及び実施し、SDGsの推進に取り組んでいます。



TOPICS

福井大学×福井銀行主催 SDGs 交流イベントの開催

2022年7月22日に学生がSDGsについて気軽に学ぶことを目的とした交流イベントを、福井銀行と共催で開催し、人と環境にやさしい服作りを通してよりよい社会の実現を目指す学生団体「やさしいせいふく」の講演やSDGsに積極的に取り組む県内企業との意見交換を行いました。

参加した学生は「SDGsに取り組むきっかけは企業によって異なり、いろいろなスタート地点があることがわかった。私たちもSDGsを始めるヒントになり、取り組みやすくなる」と話しました。



イベントの様子

就職率15連覇



■高い就職率!

大学通信調査「全国大学実就職率ランキング2022」において、
 本学は複数学部を有する国立大学では15年連続全国1位となりました。

実就職率ランキング

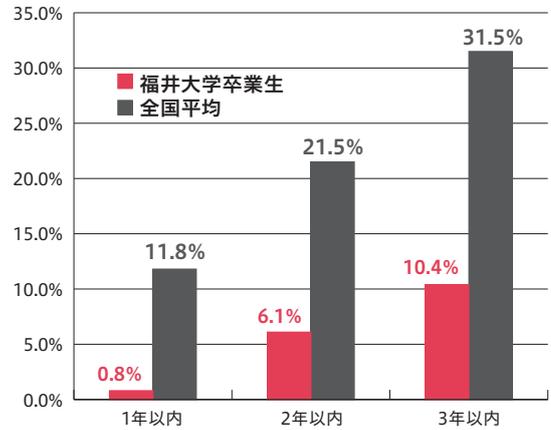
複数学部を有する卒業生1000人以上の国立大学

| 卒業年 | 1位 | | 2位 | | 3位 | |
|------|------|------|------|------|------|------|
| | 大学名 | 就職率 | 大学名 | 就職率 | 大学名 | 就職率 |
| 2022 | 福井大学 | 96.7 | 群馬大 | 95.3 | 三重大 | 93.0 |
| 2021 | 福井大学 | 97.2 | 宮崎大 | 93.9 | 群馬大 | 93.1 |
| 2020 | 福井大学 | 97.9 | 九州工大 | 95.0 | 群馬大 | 94.7 |
| 2019 | 福井大学 | 97.0 | 岐阜大 | 94.4 | 九州工大 | 94.0 |
| 2018 | 福井大学 | 97.3 | 岐阜大 | 94.8 | 三重大 | 94.0 |
| 2017 | 福井大学 | 97.4 | 九州工大 | 95.5 | 秋田大 | 93.9 |
| 2016 | 福井大学 | 96.8 | 九州工大 | 95.8 | 三重大 | 94.3 |
| 2015 | 福井大学 | 96.1 | 群馬大 | 94.0 | 九州工大 | 93.9 |
| 2014 | 福井大学 | 96.7 | 九州工大 | 94.4 | 東京工大 | 93.8 |
| 2013 | 福井大学 | 95.8 | 名古屋大 | 94.2 | 東京工大 | 93.5 |
| 2012 | 福井大学 | 95.8 | 九州工大 | 95.3 | 名古屋大 | 93.5 |
| 2011 | 福井大学 | 94.7 | 岐阜大 | 93.1 | 名古屋大 | 93.0 |
| 2010 | 福井大学 | 94.3 | 九州工大 | 93.9 | 東京工大 | 91.3 |
| 2009 | 福井大学 | 97.2 | 九州工大 | 95.8 | 岐阜大 | 94.8 |
| 2008 | 福井大学 | 95.3 | 九州工大 | 94.6 | 岩手大 | 90.4 |

大学通信調査「全国大学就職ランキング」
 実就職率=就職者数÷(卒業者数-大学院進学者数)×100

■低い離職率!

在職期間3年以内の離職率(10.4%)は全国平均(31.5%)を大幅に下回っており、企業からはその高い定着率が評価されています。



全国平均については、平成31年(2019年)3月卒業者のデータを掲載している。
 厚生労働省HP資料新規大卒就職者の離職状況(平成31年3月卒業者)
 (2022年10月28日公表)
<https://www.mhlw.go.jp/content/11805001/001005628.pdf>

福井大学が就職に強い理由 ~キャリアセンター(キャリア支援課)の取組~

社会的に自立し、社会を創造していける人材育成に力を入れ、キャリア・就職支援活動を強力にサポート。
 福大生は就職先から人間力・学力ともに高く評価されています。

■学生を支え、企業を応援する 充実した就職支援・採用支援体制

年間50回以上の就職ガイダンスや学内合同説明会を実施しています。

■柔軟できめ細やかな就職支援活動の実施

- ・専属のカウンセラー(3名)が常駐して、就職相談・履歴書添削・面接練習などを行っています。
- ・各学部・大学院の就職担当教員との強い連携による支援体制を整えています。
- ・企業・団体の求人情報をはじめ、先輩の就職体験記をWEBで確認できる就職支援サイト「キャリアサポートシステム」を運用しています。
- ・AI面接の導入。自己分析のサポート及びAI面接の体験のため、いち早く導入しました。

■コロナ禍における積極的なキャリア支援の実施

学生や企業の状況に合わせて、対面やWEB、電話での就職相談を行っており、ハイブリッドで柔軟かつ継続的な支援活動を実施しています。また、WEB面接に対応できるように、テレワークブースを設置し、学生に貸出しています。



スマホを利用したAI面接



テレワークブース

キャリア教育の充実

学生が自身のキャリアについて深く考え、自立した人間として成長することを目的として、キャリア教育にも力を入れています。
 キャリア教育プラットフォームプログラムの構築を目指し、共通教育科目「キャリアデザインA,B」「インターンシップF」の開講と併せて、共通教育「キャリアデザインC」とリカレント教育講座を共同開講する新しい取り組みも始めています。



リカレント教育修了証授与



THE 世界大学ランキング

THE 世界大学ランキング日本版2022において
医学部をもつ中規模総合国立大学※で**7位**にランクイン！

※国立大学法人評価におけるG・Hグループ25校中の順位(福井大学調べ)

福井大学基金 ～羽ばたけ基金®～

福井大学基金では、学生の修学支援及び人材の育成・輩出や地域社会の継続的発展のためのご支援をお願いしております。皆様のご支援・ご協力をお願いいたします。(クレジットカード決済でのお申込が便利です。)

「リサイクル(古本)募金」「ふるさと納税」によるご寄附も
よろしくごお願いいたします。



◆リサイクル(古本)募金は、寄附者の方からご提供いただいた古本等を業者が換金し、その金額が福井大学基金に寄附されるものです。



◆福井県のふるさと納税「県内大学の魅力向上応援」を活用したご寄附については、「ふるさと福井応援サイト」ホームページをご覧ください。

詳細は、福井大学基金のHPをご覧ください
<https://www.u-fukui.ac.jp/kikin/>



情報配信サービス

connect Ufukui (コネクト・ユー・ふくい)

福井大学の旬なニュースを、旬なままお届け！

福井大学広報センターでは、大学の研究や教育活動、イベント等の情報を通じて、在学生やご家族、地域、同窓生、高校生のみなさまとつながりを深めるため、情報配信を行っています。本システムは画像なども含まれたHTML形式で配信します。ぜひご登録ください！



登録はこちら <https://forms.gle/e2QnQizwos1saEg48>

各種SNSはこちら



Facebook



Instagram



Twitter

[表紙デザイン]

福井大学教育学部2023年3月卒業 井上 莉加香 (いのうえ りかこ)

灯りで心に感動を

～キャンパスイルミネーション～



思い出に残るような感動を与えるイルミネーションを、学生自らが企画しています。毎年様々な技術や工夫を凝らした行灯やオブジェを用いて、福井大学ならではの「ものづくり」の取組が行われています。

詳細はHPをご覧ください
https://www.u-fukui.ac.jp/cont_life/event/illumination/



研究者総覧をご存じですか？

大学のHPから福井大学に所属している研究者(教員)情報を検索できます。所属組織・職名・氏名に加え、キーワードや研究分野検索もできます。是非ご活用ください。

<https://r-info.ad.u-fukui.ac.jp>



国立大学法人

福井大学

福井大学の特色ある取組2023

発行 福井大学経営企画部経営戦略課
発行日 2023年4月1日

〒910-8507 福井県福井市文京3-9-1
TEL:0776-23-0500(代表)
HP: <https://www.u-fukui.ac.jp/>

